ハッとするよみもの

テクノロジック・リフレーミング

vol.1

ゲスト
古賀 徹
（九州大学教授、哲学、デザイン思想）

×

対話者
山内 泰
（大牟田未来共創センター理事）

01 ダイアログ・レビュー
「ウェル・ビーイング」から「ビーイング・ウェル」へ

技術と人間の関係を考えるとき、NTT研究所内でも「ウェルビーイング」は重要なキーワードとなっています。それは単純な技術ドリブンではなく、人間を中心としたサービスを構想する「ヒューマンセンタードデザイン」の軸となるものでしょう。

「理想の人間像」はいろいろあった!

では、サービスデザインの中心にある「人間」とはどんなものでしょう？実は、その答えは自明ではなく、歴史的な文脈があると古賀さんは言います。古代ギリシャの「花開く人間」、近代の「支配者としての人間」、現代（20世紀）の「機能としての人間」といった人間観の変遷をたどりながら、各時代において「理想的な人間像」が想定されてきたことを古賀さんは指摘します。

理想を目指すことは「幸せ」なのか？

もちろん、今日の私たちが「人間」という場合にも、そこには「理想的な人間像」が前提されていると古賀さんは言います。それは、安全・安心な環境のなか、楽しく独創的で、適度に苦労しながら、それなりに不自由なく暮らす人間の姿です。

そんな人間は「幸せ」そうに見えます。でも、果たして本当にそうか？と古賀さんは問いかけます。というのも、そこで私たちは、環境・技術・サービスが想定する「幸せ」を理想として、そこに至らない自分を適応させるかたちをとらざるを得ないからです。

このように、人間存在に先立つ理想に対し自らを低く位置づけるありかたでは、どこまでいっても不幸だと古賀さんは指摘します。この問題意識から、「ウェルビーイング」もまた、ビーイング（存在）に先立ってウェル（幸せ）が想定されているのではないか、と古賀さんは問うのです。

「ビーイングウェル」を目指す「問いとしてのデザイン」

この問いが示唆するのは、ビーイングを起点にそれぞれのウェルを目指す技術・サービスのありかたです。同時に、そこで求められる方向性に対して「本当にそれでよいのか？」と問いかける技術である必要もある。ウェルビーイングからビーイング・ウェルへの転換、そして「問いとしてのデザイン」。これらを要件として、ヒューマンセンタードという理念もまた、はじめて「人間」を中心としたサービスデザインが可能となるでしょう。

02 リサーチャー・ボイス

参加者の声

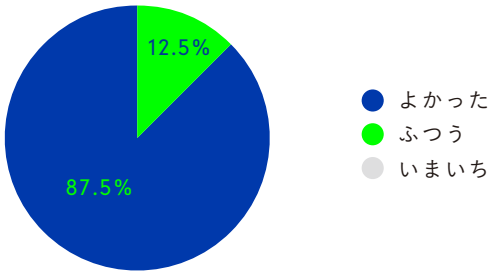
- **自分だけでは学ぶことのなかったはずの哲学的観点**に触れることができてよかった。**また参加したい。**（人間研）

- 今まで技術創出の根底にどのような歴史背景・思想に基づいているか、**考えたこともなかったためとても新鮮**でした。今後の方向性や示唆があれば情報が欲しいなと考えておりました。（社会研ウ推 G）

- とても哲学的でありながら興味深い内容でした（中略）。研究者個々人の知見や今後の方針の糧としていくには、まずは**しっかり言語化して消化させていく必要**があると思いました。」（先企推）

- 前提知識なしでお話を伺って、ついていけていないところもあったため、**対話者が途中途中でまとめてくださるところが、とても助かりました。**（人間研）

本日のセミナーいかがでしたか？



イベント概要

シリーズ「その技術は人を幸せにするのか」

「技術における人間」とは ～ヒューマンセンタードデザインを問う～

日時：2021.7.12(月)　16:00~19:00　オンラインでの実施

ゲスト：古賀 徹（九州大学教授、哲学、デザイン思想）

九州大学大学院芸術工学研究院教授。専門は哲学。近現代の欧米圏の思想を中心に研究。水俣病やハンセン病、環境破壊、全体主義、消費社会など、現実の諸課題に即して思考を続ける一方で、デザインの基礎論の構築を試みる。単著に『超越論的虚構――社会理論と現象学』（情況出版、2001年）、『理性の暴力――現代日本社会の病理学』（青灯社、2014年）。編著に『デザインに哲学は必要か』（武蔵野美術大学出版局、2019年）他。

対話者：山内 泰（大牟田未来共創センター理事）

一般社団法人大牟田未来共創センター（ポニポニ）理事、NPO法人ドネルモ代表理事、株式会社ふくしごと取締役 。有識者との対談等の実績多数。その他、共創学会理事、大学講師（九州大学）など。「挫折のデザイン～パーソンセンタードにおける新しい主体性」（『デザインに哲学は必要か』武蔵野美術大学出版,2019）、「ぐにゃりのまち－超高齢社会「以後」の地域経営モデル（Sustainable Smart City Partner Program,NTT,2020）、「『わたしの役柄』が表現すること哲学者・國分功一郎さんとの対話から」（『精神看護』,Vol.23,No4,医学書院,2020）等